



郷土史への扉

国分に「府中」という地名がありません。全国では東京都の「府中市」が有名です。府中市は旧国名でいえば武蔵国の国府が置かれた所です。国府

というのは、地方の政治を行う役所の在った区域を指します。国分の府中は、肝属・曾於・大隅・始良の四郡（建国当初）の政治を取り仕切った大隅国の役所が在った場所なのです。

大隅国は奈良時代の和銅六（七二二）年四月に設置されています。この時代がどんな時期かといいますと、和銅三（七一〇）年に奈良に都が置かれていたので、その三年後に大隅国が置かれたというわけです。

大隅国が置かれた七年後の養老四（七二〇）年には、反乱を起こした大隅隼人と日向隼人の連合軍が、大隅

隼人を蹴殺した神

国府を襲い、国守（長官）の陽侯史麻呂を殺すという大事件（隼人の乱）が起きています。

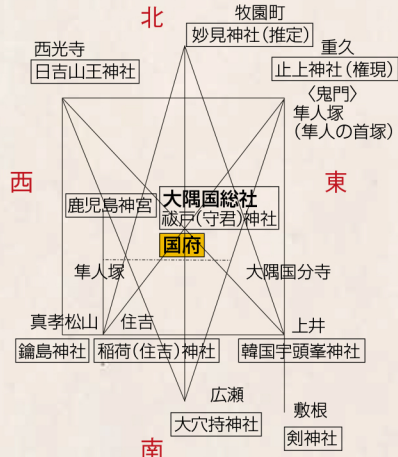
岡山県に総社市という市があります。そこは備中国の総社が祭られている所です。そもそも「総社」という名前は、国守が領内の著名な神社の祭神を一堂にまとめて祭り、巡拝の労を省くために設けた神社といわれ、たいがい国府の中心に位置されているものです。

わが大隅国の総社は府中の祓戸神社で、古くは守君神社とよばれていました。現在は小さなお社に見えますが、祓戸神社は国府の範囲や規模を知る上で目安となる非常に重要な建物なのです。

祓戸神社を中心軸にして、国府の周辺を見渡すと、四方の神社が縦横あるいは斜めのラインで結ばれていることに気が付きます。南北に、あるいは鬼門（北東）の方角に、さらには東西南北にも神社を配置してあります。

具体的には、祓戸神社の真南が広瀬の大穴持神社、真北が妙見温泉の名前の由来になる妙見神社（現在は犬飼滝

大隅国府周辺神社等配置略図



の近くに小字妙見崎として残る。推定)、鬼門は重久の止上神社、その反対(裏鬼門)は富隈城内の稲荷神社(古くは住吉神社)となります。

東方は海岸にある敷根の剣神社、そこから韓国宇豆峯神社、北上して重久の止上神社に行き当たります。西方はA-Zスーパーセンターの近くの鑰島神社、それより北上して西光寺の日吉山王神社に到ります。さらに東西に韓国宇豆峯神社、稲荷神社、鑰島神社と一直線に並んでいます。止上神社と日吉神社も横一列に並びます。

これは偶然ではなく、国府を守る古代の都市計画に基づいた配置ではないでしょうか。さて神社配置に関わることでもう一つ指摘できることがあります。

災いを防ぐ鬼門に当る止上神社の古文書に、「右社伝ニ申シ伝工候ハ上古

二早人退治ノ時、止上権現、鷹ト躰シテ隼人ヲ蹴殺シ給ウ尊神ナリ」と驚くべきことが書かれています。

また『国分諸古記』の記事には、「大人ノ穴ヲ悪災袋ト申シ候 右退治ノ折節、宇津峯神、就中、靈験新タニ剣ノゴトク現シ給ウ 故ニ剣大明神ト唱エ奉リ候 魔性退治ノ神達ヲ五社ト申ス事」と記されています。

五社とは別行に「一之宮止上権現二之宮大明神 大穴持之神社 宇津峯神之神社 宮浦神社」とあります。これらの神社は隼人退治の伝承を持つている点で大いに注目されます。中でも止上神社の社伝は、神様が鷹となつて隼人を蹴殺したという強烈な表現がなされています。

止上神社の近くに隼人の首塚とされる隼人塚があることなどを考えると、隼人退治の伝承がますます意味を帯びてきます。国府周辺の神社の言い伝えや位置関係は今一度注目する必要があります。

再来年の平成二五（二〇一三）年は、大隅国建国千三百年の節目を迎えます。大隅国の場合、国府の範囲がまだまだ分わかっていません。

今後、計画に基づいた発掘調査を行い、国府の規模や構造などを解明していくことが期待されます。

文責 藤